

法尻相撲の由来

今を去る百有余年前より江流期の無事通水を喜び、守護神に感謝の意をもって相撲を奉納したのが始まりである。

これは牛ヶ首、太閤山と共に県中部の三大相撲と称せられ、力士は呉東、呉西に分れ「大関」の争奪戦が盛大に展開された。

観衆は熱気のあまり瓦礫が乱舞する程の、盛況であったが、地方角界の変遷により昭和三十五年頃より中止のやむなきに至る。

この由緒ある場址に碑を建て後世に伝える

昭和五十八年十一月